

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第41号

2009年11月30日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575)24-2211

「聴く耳を待つ」

岐阜済美学院長 小野経男

マルコによる福音書4章1節～20節

イエスはたとえでいろいろと教えられ、その中で次のように言われた。「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の中に落ちた。すると茨が伸びて覆いふさいだので、実を結ばなかった。

また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育てて実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」

©新共同訳聖書

イエス・キリストはよくたとえを用いて教えられました。今回の聖句に現れるたとえは、イエスが語るみことばを聴く者の態度についてです（「きく」には「聞く」と「聴く」がありますが、耳を傾ける意味の「聴く」を使います）。当時のユダヤ教教師もたとえを使って教えていましたが、イエスのたとえはイエスの地上に来られた使命に関するもので、人の救いの大切なメッセージが込められていました。

1. 「聴く耳のある者は聴きなさい」

たとえの最初のケースはみことばを聴くが、片隅で耳に入っただけなので、みことばがどこかに行ってしまう人です。2番目のケースは喜んでみことばを聴くが、研究しないので途絶えてしまう人です。3番目のケースはみことばを聴くが、ほ

かの世の思いに惑わされて結実しない人です。4番目のケースはみことばを聴いて、研究し深めていく人です。深めていきますから、30倍も、60倍も、百倍も成果が上がります。

2. 過去・現在・未来を聴く耳

1から4番目はそれぞれ独立したケースでしょうか。同じ人が生涯で経験していく過程でもあるのではないのでしょうか。最初は関心のなかった事柄がある機会から関心を持つようになったり、ほかの関心事から真理に立ち返ることもあるのです。そういう観点からイエスのたとえを考えると、1番目のケースは精神的に幼い過去の経験です。2番目のケースはその場限りの生半可な現在の生活のことです。3番目のケースは折角得た真理が世俗的思考に乱されてしまう未来のことです。4番目のケースは過去・現在・未来にわたって真理を堅持し、成果を挙げていく生活です。

3番目まではみことばを聴かない人のことですから、1番目は過去を聴くことが出来ない耳、2番目は現在を聴くことが出来ない耳、3番目は未来を聴くことが出来ない耳です。4番目は過去・現在・未来を聴くことが出来る耳で、聴いたものを噛みしめ、悟り、将来にわたって聴く耳を持っている人です。

3. 「みみをすます」

谷川俊太郎氏の「みみをすます」から一部引用しましょう。過去・現在・未来を聴く人が詠われています。私たちも耳をすまして背後にある事象を理解してみましょう。

・ ・中略・ ・

みみをすます／じゅうねんまえの／むすめの／す
すりなきに／みみをすます

みみをすます／ひゃくねんまえの／ひゃくしょう
の／しゃっくりに／みみをすます

みみをすます／せんねんまえの／いざりの／いの
りに／みみをすます

みみをすます／いちまんねんまえの／あかんぼの
／あくびに／みみをすます

・ ・中略・ ・

みみをすます／みちばたの／いしころに／みみを
すます／かすかにうなる／コンピューターに／み
みをすます／くちごもる／となりのひとに／みみ
をすます

・ ・中略・ ・

みみをすます／きょうへとながれこむ／あしたの
／まだきこえない／おがわのせせらぎに／みみを
すます

『みみをすます』福音館書店、1982年所収

4. 現代における「たとえ」

イエス・キリストの「たとえ」はみことばを聴き、それを過去・現代・未来にわたって悟ることを教えています。歴史上一国家として、一個人として、過去に犯した罪は大きいです。東南アジアに行けば、日本軍隊に殺された人々の碑がいたるところに建っています。その反省の上にたって、現在のあり方、そして将来どうするかを考えていかなければなりません。「核廃絶」を唱えたオバマ大統領をロール・モデルとして、核兵器のない世界を創ることが急務です。キリストの生涯は私たちがこうあるべきだという教えとして、耳を傾けて聴くべき「たとえ」です。

クリスマス献金のお願い

宗教総主事 笠井 恵二

今年も主イエス・キリストのご降誕をお祝いするクリスマスの季節がやってきました。クリスマスは、主イエス・キリストがご自身のすべてを人々の幸せのためにささげつくしたことに因んで、少しでも私たち自身の一部を人々の幸せのためにささげ合うことを実践する季節です。本学合同宗教委員会では慎重に話し合った結果、今年も昨年同様に例年献金をしている諸団体及び、スマトラ島地震及びインド・フィリピン地滑り災害救援のために活動している団体に送ることにいたしました。みなさまのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

尚、昨年度は、194,822円の暖かい献金をいただきましたことを報告いたします。

「2009年度中部学院大学・中部学院大学短期大学部クリスマス献金」

神様の御旨のままに従い ①「日本と世界の各災害被災者を覚えて」

②「いのちの大切さを覚えて」 献金をささげます。

献金予定先：①日本キリスト教団各種災害救援支援

②キリストへの時間

③岐阜いのちの電話

④愛知老人コミュニティセンター

⑤社会福祉法人 あゆみの家

⑥岐阜野宿生活者支援の会

⑦社会福祉法人 親隣館

⑧その他



「Quiet Time」

加藤 コラゾン (中部学院大学短期大学部准教授)

訳： 村上 進 (中部学院大学総務部長)

聖書：ルカによる福音書 5章 15～16節

しかし、イエスのうわさはますます広まったので、大勢の群衆が、教えを聞いたり病気をいやして
いただいたりするために、集まって来た。だが、イエスは人里離れた所に退いて祈っておられた。

(聖書 新共同訳)

英語の聖書から：

“But Jesus Himself would often slip away to the wilderness and pray.”

「しかしイエスは、ひとりで荒野に退いて行き、祈ることがしばしばあった」

(New American Standard Bible)

Introduction:

What is a quiet time? - Some would call it devotion. I would call it simply one's personal time alone with God. It's your appointed time with God in a designated place that you do regularly.

Do you have a quiet time?

If your answer were 'YES' then you would agree with me that it is a wonderful habit to develop. And that to become a mature believer you have to spend time alone with God, undisturbed, on a designated time and place AT YOUR OWN CONVENIENCE.

If your answer were 'NO', then I would understand that many believers struggle finding time to spend with God alone for many reasons.

Anyhow, looking at the passage on Luke 5: 15-16, Jesus was a perfect example of the essentiality of spending time with the Father. If you noticed, Jesus popularity demanded a tight schedule. As the news spread he was sought more. That means he has a lot of appointments. But the scripture said, "He would often get away and spend time alone with the Father and prayed". That attitude was intentionally modeled by Jesus to pass on to His disciples and to us believers to follow. It was meaningless to do that if He did not want us to follow that. When in fact all his life is an example to all believers.

初めに：

「静かな時」とは何でしょうか。「献身の時間」と呼んでもよいかもかもしれません。私はそれを、それぞれが独りで神さまと向き合う「私的な時間」と呼びたいと思います。毎日、決まった場所で、神さまと過ごす「約束の時間」です。

「静かな時」を持っていますか？

「はい」と答えた方は、そういう習慣を持つことのすばらしさに賛成して下さるでしょう。信仰の成長のためには、自分自身で都合のつけられる時間と場所を決めて、誰からも邪魔されず、独りで神さまと向き合う時間を持つことが必要なのです。

「いいえ」と答えた方もいるでしょう。いろいろな理由により、一日のうちで神さまと過ごす時間帯を見つけるのは容易なことではない、ということも理解できます。

ともかく、ルカによる福音書5章15-16節を読んでみましょう。神さまと向き合う時間がいかに必要不可欠なものであるかを、イエスご自身が示しているのです。彼がどんなに多忙な時間を過ごしていたか、皆さんにもわかるでしょう。イエスのうわさが広まるにつれ、彼はますます多くの人を相手にしなくてはなりません。しかし、聖書には「彼は、よく離れて独りで天の父との時間を過ごし、祈っておられた。」と書かれています。これはイエスご自身がはっきりとした意図を持って弟子たちに、そして私たちに手本を示しておられるとしか思えません。私たちがそのとおりに行うことをイエスが望んでいなかったとしたら、このイエスの行動はまったく無意味です。イエスの生涯はすべて、このように行いなさい、という私たちへのお手本なのです。

How I started my Quiet Time:

When I was I newborn Christian, I started to develop some hunger to know Christ. So, I had fellowshiped with other university students in the mornings, before our classes would start. We spent about 30 minutes. However, I realized I needed to have my own personal time with Christ. So, I started doing it on early mornings at 5:30.

Results: Spiritual Growth

Quiet Time could contribute to one's spiritual growth more than just going to church. I don't say that it's better than going to church. We still need to fellowship with other believers so we go to church. But you have heard testimonies that during quiet time one learns to make journals of his readings; list down prayer items; and enjoy the visible effects of the time spent alone with God.

Level of relationship

Also noticed that a person's relationship with God does not just stay on a Textual Level. That is "knowing Him by reading His word". No. Reading the scripture becomes relational approach. You see, every time I spent reading the scripture, I could see myself there. And that amazed me so much. A very intimate relationship could develop. And that's what it should be, to develop an intimate relationship with God.

Deep Hunger

If you have a regular quiet time, you can agree with me that your hunger to know Christ becomes deeper. That 5:30 was no longer enough. So it became 5:15. And if you were in your deepest struggle you wanted to spend longer time talking and listening to Him.

It does not mean you have to do it all at that particular time. "While HE was on the crowd ... Jesus Himself went away to spend time with God and pray." (Luke 16) That means, in between of his busy schedule.

Variety

If you have a regular quiet time, you can agree with me that in order to keep the relationship alive all the time you have to vary your style. Sometimes you use a devotional prayer, sometimes you read the scripture by chapter; sometimes you just listen to Audio CDs; sometimes you just grab a prayer book.

私が「静かな時」を始めたのは：

まだ私がクリスチャンになったばかりの頃、私はキリストのことを知りたくて、まさに「飢えて」いました。それで何人かの友だちと毎朝、講義が始まる前に30分ほど聖書を読んで祈ることを始めました。けれどもやがて、私自身がキリストと出会うために、独りになることが必要だと感じはじめました。そこで朝5時半に起きてその時間を持つことにしました。

「静かな時」が与えてくれたもの：霊的な成長

「静かな時」は、単に教会に出席するだけでは得られない霊的な成長を私たちにもたらします。教会に行くよりも良いことだ、とは申しません。私たちは仲間を必要としています。だから他の信徒たちと一緒に教会に行きます。けれども「静かな時」の中で神さまの言葉を読み、感じたこと、祈ったことを書きとめている人もいます。独りきりで神さまと過ごした時間の、目に見える成果をこの人たちが証しするのを聞いたことがあるでしょう。

より深い関係へ

神さまとの関係が、単に文字によって知っている、というだけのものではなくてくるのです。読んで、神さまについての知識を得るのではありません。聖書を読み続けることは、神さまとの「関係を深める」ことなのです。聖書の言葉を読むたびに私はその中に自分自身を見つけ、いつも驚かされます。そのとき私は神さまをととも身近に感じます。これこそが神さまと親密な関係になる秘訣です。

心からの求め

「静かな時」を持つことを習慣にしていると、キリストを知りたい、という「飢え」がますます強くなるのがわかります。5時半に始めたのでは足りません。それで5時15分から始めることにしました。深い悩みの中にあるときはもっともっと長いあいだキリストと語り合っていたくなるのです。いつも決まった時間にしなくてはならない、というわけではありません。聖書にも、「イエスは群集に取り囲まれ・・・独りになるために離れてゆき、そして祈った」(ルカによる福音書5章16節)と書かれているように、イエスご自身も、その多忙なスケジュールの隙間をぬうようにして、神さまと対話し、祈る時間を作られたのです。

バリエーション

「静かな時」を持つことを習慣にしているなら、それをマンネリ化させないためにいろいろなスタイルを試してみると良いでしょう。ある時はひたすら他人のために祈り、またある時は1章ずつ聖書を読む。聖書朗読のCDを聴くのもよいでしょう。祈りの言葉を集めた本を読むだけでもかまいません。

Of course God is not boring, neither you nor I. Remember we are developing a relationship and so we have to always make it fresh.

もちろん同じことを繰り返したとしても、神さまは決してあなたの言葉に飽きたりはしないし、私たちもそれを続けることに飽きることはありませんが、いつも神さまとの関係を新鮮にしておくことを心がけたいのです。

(2009年10月1日 関キャンパス チャペルアワースピーチより一部を抜粋)

【インタビュー】チャペルアワーに参加して

短期大学部 社会福祉学科 1年 薫田幸子さん、辻 加代子さん
2009.11.19 関キャンパスにて (聞き手：企画室 村上 進)

- ◆ チャペルアワーに参加したきっかけは？
大学でキリストについての話が聞けるなんてすごいことだと思ったので。(辻)
宗教としての「キリスト教」というよりも、むしろキリストの教えやそれにまつわる話に興味があった。(薫田)
- ◆ チャペルアワーの印象を聞かせてください。
そこだけ異次元というか(笑)。天井が高くてパイプオルガンの音が響いていて、日常とかけ離れた感覚。授業で神経が高ぶっているときなど気分転換になる。(薫田)
毎回いろんな先生がいろいろな見方でキリストの話をしてくださるのがうれしい。(辻)
- ◆ 印象に残っているお話は？
「大切なきみ」。(編集部注：11月12日の関キャンパスチャペルアワースピーチ「あなたを造られた神」/益田明のなかで引用された、マックス・ルケード作の童話)
「おまえはそのままでも尊く、かけがえのない大切な存在なんだよ」という言葉で泣きそうになった。(薫田)
- ◆ これからも続けて出席したいですか？
後期は1限・2限連続の講義を取ったのでその間の休み時間にレポートを仕上げなければならず、毎回は難しいけれどできるだけ出席したい。(辻)
キリスト教、仏教など個々の宗教で全然別のことを教えているわけではなく、普遍的なものがあり、行き着く先というか指し示しているものは共通のものだという気がしているので、もっと深く知りたい。(薫田)

チャペル礼拝(チャペルアワー)について

これまでのチャペルアワーの内容が、本学ホームページに掲載されておりますのでぜひご覧下さい。

中部学院大学短期大学部ホームページ URL: <http://www.chubu-gu.ac.jp/>

左側のメニューから「中部学院について」→「キリスト教教育について」→「チャペルアワー」とお進み下さい。(http://www.chubu-gu.ac.jp/about/christianity/chapelhour/)

岐阜済美学院年題聖句 (2009年度～2010年度)

「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。」

新約聖書(新共同訳)：マタイによる福音書5章8節

2009年度 クリスマス礼拝 「暗い夜が輝いた」

日本基督教団 高石教会 一木 千鶴子 先生

日 時：12月17日(木) 11:00～12:15

(第2時限の講義は行いません。)

会 場：関キャンパス グレースホール

講師プロフィール



1951年京都で生まれる。1980年から伝道者として働く。東京の粕江教会伝道師(4年)、長崎飽の浦教会牧師・飽の浦幼稚園園長(13年)、京都の丹波新生教会牧師(10年)、大阪の高石教会牧師として2年半現在に至る。20代から30代にかけて4年ほど、ラジオの伝道番組でDJをしていました。

クリスマスの出来事は、不思議と驚きに満ちています。神が私たちと同じ人間として、私たちのところに来てくださったというのです。それは、神の「あなたが大事、あなたを決して一人ぼっちにはしない」という神の愛が、見えるかたちで私たちに明らかにされた出来事でした。

あの暗い夜、羊飼いたちは「あなたがたのために」というメッセージを聞きました。多くの人たちから隔離されたかのような町の外の暗闇の中で。このクリスマスのメッセージは、今も暗闇の中で、孤独な人、希望を失った人、つらさや悲しみの中にたたずんでいる一人ぼっちの人たちに発せられ続けています。「あなたが大事なんだよ」「あなたはもう一人ぼっちではないよ」、その呼びかけを聞いた人は、暗闇が輝くという経験をするようになるでしょう。それは、希望と夢を私たちに与えてくれるでしょう。その輝きの中に、私たちの歩むべき道が見えてくるでしょう。

どんなに今の状況が暗くても、それがすべてではなく、「わたしはあなたを愛している。」「あなたのそばにわたしはいる」と、神は呼びかけておられます。そう、クリスマスは「もう一人ぼっちではないよ」という出来事なのです。イエス・キリストは、わたしのところに、そしてあなたのもとに来てくださったのです。一人ぼっちではないということは、どんなに私たちに勇気を与えてくれることでしょうか。どんなに私たちに優しくしてくれることでしょうか。これは、世界中のすべての人たちに与えられた大きな恵みなのだと言聖書は告げています。そのことに気づけたらいいなあと思います。

自分を守ることで精一杯で、隣人がどんなに悲しんでいても、苦しんでいても気づくことができない、他人のことにまで関心を持つことができないために、今、私たちのまわりでは命を脅かされている人たちがたくさんいます。イエス・キリストは、まさにそのような現実のただ中に誕生されました。宿屋はいっぱい、誰にも気づいてもらえなくて、誰からもゆずってもらえなくて、イエス・キリストは馬小屋でお生まれになりました。そして、誰からもかえりみられることのない、むしろ差別されたり、疎外されている人たちの仲間として生きられました。そして、隣人が生きることができるようになるために命をかけられたのです。

「さあ、一緒に生きよう」という呼びかけに耳を傾けましょう。そして、愛され、愛する道を、イエスと共に歩み始めましょう。それは希望と喜びと命あふれる道なのです。